

令和7年度 石川県立輪島漆芸技術研修所運営委員会 議事録

日時：令和7年5月28日（水）

午後1時30分～

場所：輪島漆芸技術研修所 講堂

最初に事務局から委員14名のうち10名の出席、4名の委任状の提出があったので、運営委員会規則第5条第2項の規程により当委員会の開催と議決は有効であることが報告された。また、委員会の開会を宣言した。

次 第

1. 所長挨拶

2. 会長挨拶

会長は山岸委員に引き続き依頼する。また、山岸会長が議事進行することを宣言した。

3. 運営委員及び職員紹介

4. 議事

（1）研修所現況報告及び被災状況

事務局から令和5～6年度事業実績として、卒業式や作品展、見学研修についての報告があり、令和6～7年度事業計画に関して、入学式、作品展、見学研修、デザイン研究会、特別講義、オープンキャンパス、卒業式、入学試験、備品購入についての報告があった。併せて、令和6年元日の能登半島地震及び9月の豪雨災害からの復興状況について報告があった。多くの方々からのご支援で、研修が再開され、漆芸の技術伝承に努めている旨の説明もあった。山岸会長が審議を諮ったところ出席委員の賛成多数で可決された。

（2）令和6年度及び7年度の研修所運営

9月の豪雨を経て、在校生は令和6年10月に授業を再開し、令和6年12月に普通科4名、専修科11名の計15名の入学式を挙行了。令和7年3月中旬に、しいのき迎賓館で在校生の作品展、同月下旬には令和6年度前期終了作品展等を実施。令和7年度に入り、県内の見学研修、デザイン展、オープンキャンパス、県外への見学研修を実施予定。

併せて、研修所運営に関して、講師の変更や指導陣営、運営目標、教育方針、教育課程、庁舎警備、災害対策、職員の事務分担、年間行事予定、年間指導計画についての報告があり、山岸会長が審議を諮ったところ出席委員全員の賛成で可決された。

(3) 優品模造制作

事務局から令和6年度の優品模造制作完成、(山岸一男制作 漆象嵌箱『玉響』)と優品調査、令和7年度の優品模造制作(大谷早人制作 藍胎蒔醬水指『黎明』Ⅱ 榛地工程)についての報告があり、山岸会長が審議を諮ったところ出席委員全員の賛成で可決された。

(4) 事務局より新規報告

- ・輪島高校のテニスコート跡地に仮設の寄宿舍として、トレーラーハウスを設置した。これにより現在13名の研修生が住むことが出来ている。なお、将来的には本研修所敷地内で寄宿舍を建設予定である。
- ・令和7年度より「輪島漆芸技術研修所奨学金」が予算化された。月5万円で1年間60万円の給付型奨学金となっている。対象者は普通研修課程の研修生であり、今年度は審査の結果7名に対して給付決定となった。

(5) 運営委員の意見・要望

近藤委員

- ・作品を作るための材料費、特に「金(ゴールド)」の値上がりが激しい。その影響で金粉の使用を抑えるのは、技術伝承の観点からは本末転倒であるため、引き続き金粉をしっかりと購入して研修ができるよう予算をつけてはいかかがか。

中野委員

- ・「金」も必要であるが、漆の「黒」にもこだわった作品作りも必要であり、それを教えていくことも必要である。

増村委員

- ・地震があり、多くの方々からの支援もあったとの事。何か寄附を受けた方々へ御礼を込めて顕彰をしてはどうか。

島崎委員

- ・多くの方々からの支援により地震からの回復。先生方のご尽力に敬意を表します。奨学金の制度が持続可能であればいいなと思います。

坂口委員

- ・昨年、能登輪島市は地震と水害で大きな被害を受けました。

奨学金の制度は大変良い事だと思います。日本の漆芸を守っていくうえで、研修所を含めて大切な事業です。漆芸で生活できるように今後ともご指導をお願いします。

細川委員

- ・奨学金制度について。作品展に提出が必要との事ですが、産地（輪島市）に残り、漆器に携わっていききたいという人達にも目を向けていただきたい。